

第17回山口100萩往還140km

(2005年5月3日～5月4日)

ゼッケンNo.B82 山猫@滋賀

【はじめに】

何の準備もいらないので、今年もひとりで『さくら道』を走ろうと思っていたが、やまさんが萩往還に申し込んだと聞き、一度萩往還に行くのも良いかなと思って申し込みをした。最初は夜行バスでの往復と考え、現地での行動をどうするか思案していた。そんな中、3月の怪速亭総会でふきこさんから地図を頂き、ジェイさんの車にまだ空き人員があること、ダブルさんには安く泊まれるところがあると聞き、そのお願いもできた。当初いろいろ考えていたことは気苦労で済んだ。有り難いことだ。

GW休日は10日間あるが、4/29から5/2の間に72km走り込んだ。4/30の34km走はバタバタで歩きが半分くらいだった。疲労が相当溜まっているのがよくわかる。まあ一晩のことなので何とかなるだろうと気楽に構えていた。

【いざ山口へ】

当日は5時に起き、5時30分のJRに乗る。コンビニで買った朝食を車内で食べる。山科で湖西線のやまさんと三ノ宮でこがみちゃんと合流。待ち合わせの明石には7時35分に着けた。ダブルさんと合流し、今回車を出して頂くジェイさんを待つ。ジェイさんのローレルが到着すると「第二神明道路」、「播但連絡道路」から「山陽自動車道」に入る。初めて通る道路なので全くわからなかった。途中、福山付近で昨年走った「しまなみ海道」の表示があった。ところどころ渋滞があったが、ナビを持たない私は渋滞情報までナビでわかることを初めて知った。「宮島SA」ではカレーライスと焼おにぎりで昼食。GWの昼時間とあって食堂は込んでいた。先ず岩国に入ると山口県だが防府は遠く、どちらかというとも広島より下関の方が近いと初めて知った。

「防府東インター」で降りて、山口から防府までのコースを辿ろうということになった。地図では一本道のようなイメージだが、目で確認しておくとも全然違うと思う。辿って行くとよくわかった。英雲荘のチェックポイントの確認もでき、折り返して瑠璃光寺に向かう。



15時から説明会があるが、駐車場に着いた時が15時頃だった。慌ただしいのも嫌なので説明会はパスした。受付は「瑠璃光寺」の奥にある「本堂」の横だった。入ったところにある国宝の「五重の塔」はそれはそれは見事だった。かつて、「夜叉ヶ池」言い出しっぺの実行委員長・山口さんが萩往還のゴール、スタートである瑠璃光寺・五重の塔をヒントに『夜叉ヶ池伝説マラニック』開催を思いついたと読んだことがある。庭は手入れも素晴らしく、ツツジも綺麗だった。

荷物預かり所の「洞春寺」はその横にあった。本堂が荷物置き場だった。小柄な女性の姿があり、ゼッケンから富山のムーミンさんだとわかったので挨拶する。ムーミンさんのPCトラブルで私が作成した地図はうずらさん経由で無事に届いたようだ。良かった。ムーミンさんは宮古島100km遠足でもM本さんの伴走をされた方だが、外見からするととてもそんな風には見えない。何やかやしているうちに本堂の外に出るとやっほ～さん、うえちゃんが夕食中だった。私達も食べないといけないのでやまさんとコンビニに向かう。夕食を食べ、元気になってスタートを迎えられた。



荷物預かり所の「洞春寺」はその横にあった。本堂が荷物置き場だった。小柄な女性の姿があり、ゼッケンから富山のムーミンさんだとわかったので挨拶する。ムーミンさんのPCトラブルで私が作成した地図はうずらさん経由で無事に届いたようだ。良かった。ムーミンさんは宮古島100km遠足でもM本さんの伴走をされた方だが、外見からするととてもそんな風には見えない。何やかやしているうちに本堂の外に出るとやっほ～さん、うえちゃんが夕食中だった。私達も食べないといけないのでやまさんとコンビニに向かう。夕食を食べ、元気になってスタートを迎えられた。

最初、瑠璃光寺の外からスタートかと思っていたが、silk さんに会うと瑠璃光寺境内からだを教えて貰ったのでその場所に行くとするで並んでいる人が大夫いた。silk さんは250kmだと思っていたが、仕事の関係で140kmにされたそうだ。何度も完踏されているのでコースは熟知されていると思う。5分毎のウェーブスタートは50人毎だったので2番目の18時05分スタートになった。



【大会道中記】

瑠璃光寺（スタート）

6時05分

やまさん、こがみちゃんと並ぶ。応援の方々がたくさん見送って下さる中を真っ直ぐに進み、「木町橋」を右折する。国道9号線の地下道を潜り、真っ直ぐに進んで行く。山口福祉センターに置く荷物を持ったランナーがかなりいた。前に居たこがみちゃんを振り切ってペースを上げ、県道201号線を右折する。ウェーブスタートということもあるのか、それともウルトラ経験者が少ないのか、周りの10人くらいがペースを上げ始めたので私もその渦に入ってしまった。「まずい」と思いながらももう遅かった。

「山口駅入口」交差点を左折し、大きな「宮島町歩道橋」で左側歩道から右側歩道へと移動する。この先ずっと右側歩道を進んだ。ここからは県道21号線だ。仁保川を渡り、更にペースが上がった。100kmマラソンのようだ。信号待ちがあればその場で足を上下させている人もいた。人それぞれとはいうものの、先は長いのに何故そこまで疲れることするのと思った。右に「餃子の王将」「すき家」がある。もし腹が減ったら、復路で「焼肉井でも食べたいなあ〜」と思いながら進む。どんどん汗が噴き出し、怪速キャップの日差しからは汗がポトポト落ち始めていた。キャップを脱いでは何度も何度も地面に汗を払った。6km付近だろうか、6時スタート組をどんどん捕らえ始め、7~8人の集団の中で6分をはるかに切るペースになっていた。益々やばい状況だ。ふじもっちゃんの応援を受け、写真を撮って貰ったのは7.5km付近のようだ。コンビニも結構あった。



「中国自動車道」高架下を潜った先で国道262号線に合流した。ここからは真っ直ぐな道路が続いた。ウェーブスタートの後続組にもどんどん抜かされ、競争の感じさえしてきた。これがマラニックなのって感じだ。ダブルさんに抜かれたのはちょうど7時頃だった。この頃、私は一番ペースが上がり、5分40秒くらいで走っていたので、ダブルさんは1分は速い4分40秒くらいだったと思う。凄い気合いと250km参加を拒否されたうつぶんを晴らすかのような走りに思えた。この頃は集団ではなく、ひとりになっていた。徐々に薄暗くなり始め、11km手前くらいだろうか、やっほ〜さん、うえちゃんに抜かれた。やはり4分台の走りだった。13km付近から緩い上り変わった。この先も続いている。この辺りから建物がないのでやや風が冷たく感じ始めた頃だった。

上りの途中に『鯖山（しゃもじ）エイド』（14.0km/19:27）があった。お茶を2杯頂いた。ここからは右斜めの旧道に入り、70mほど上らないといけない。曲がりくねった、時々水溜まりのある暗闇の道を進む。ライトがないと見えない状態だったのでLEDヘッドライト取り出し、点けた。上りは歩くことに専念した。汗がどんどん出るが、この峠ではかなり冷たい風が上半身、特に神経痛の右腕に当たり、心配になってきた。標高170mの「鯖山峠」を越えるとT字路があったので左に進む。少し進むと急な下り坂が待っていたが、思うように下っていけない。もうバテてきたのか？。「勝坂」で再び国道262号線に合流。この先、3km近く下りが続いた。歩道は広いが、外灯がなく、道路側に植えられている樹木の囲いと歩道の境目が見えず、足を取られないか心配しながら下った。また5~6人の後ろを走る羽目になり、必死で付いて行く感じになった。かなり疲れてきた。「山陽自動車道」の地下道を潜り、佐波川に掛かる「新橋」を越えた。「平和町」でスタッフに誘導され、また地下道に入った。ここの地下は斜めに横断する。上がったところにオレンジ色の「吉野家」が見えた。

次の信号待ちで座り込むと10人以上の集団に一気に抜いて行かれた。これで気分は楽になり、もう急がなくても済むと思えた。「防府駅」前を通過、賑やかな繁華街の歩道を進むとダブルさんがもの凄いペースで折り返してきた。先頭はすでに折り返していたので2番手だ。声を掛け合う。右折の「天神入口」手

前で20時スタートの60km歩け歩けの部参加者とすれ違い始めた。2列になって進まれるので走りにくかった。来る時にコース確認したので安心だ。道路の周りに建物があると風が当たらないのでやや蒸し暑く感じた。「山陽本線」高架下を潜り、一旦左側歩道を進んだので、折り返されたやっほ～さん、うえちゃんとはすれ違わなかった。ややばらついてきた。チェックポイントの『英雲荘』の手前の公園にパンチはあった。ここはスタッフの方がパンチをして下さった。エイドではチョコレートパンとお茶を2杯頂いて出発。

英雲荘（22.4km）

20時21分（2時間16分）

すでにへばっており、ペースは落ちた状態で復路に付いた。信号待ちでは普段の練習同様に座り込んで青に変わるのを待った。向側から来るやまさん、こがみちゃんとすれ違って声を掛け合った。その先でsilkさんともすれ違った。「天神入口」を左折するととどろんと後続のランナー達とすれ違った。まだかなり後ろにいるようだ。「平和町」で地下道を斜めに渡り、4車線の国道262号線に戻る。これだけの幅広い道路でありながら、外灯は少ない。どうして何だ？。「山陽自動車道」の地下道に差し掛かると60km歩け歩けの部の人を追い越す。往路では地下道でも走って上り下りしたが、もうそんな元気はない。あまりにも早いバテ方に自分自身嫌になり始めた。地下道を越えてからは上りが続く。前に見えていたランナーの姿は視界から消えて行く。

もう駄目だ。歩き出す。歩け歩け組より歩くのは早いのでとどろんと抜かすが、所詮悪あがき。意地もあるので必死で腕を振り、先を急いだ。どこでシャツに袖を付けようか、思案しながら進む。歩け歩けの人が2列で歩くので抜かしにくかった。ところどころに外灯はあるが、やはり暗かった。歩け歩けの人も大夫まばらに変わっていた。「勝坂」で左に折れ、旧道を「鯖山峠」に向かう。先ほど下ってきた道路だが上りは急に見える。真っ黒だ。ヘッドライトだけでは暗いので、スポットタイプのハンド型LEDも取り出す。デイパックのボトル入れに100円ショップで買ったストラップで繋いだLEDは落とす心配もないので安心だ。「鯖山峠」を越えると真っ暗闇になった。前にいる歩け歩けの人が突然現れる感じに変わった。水溜まりもあり、くねくねしているので十分足元を照らしながら降りて行く。下りは走れた。

『鯖山エイド』（30.8km/21:18）に着くと140km組と歩け歩け組が交じりあって結構人が多かった。萩は初めてなので食券の使い方が良くわからなかったが、メニューが壁に貼ってあったので迷わず、スタミナを付けるために「肉うどん」を注文する。七味をたっぷり降って食べた。出汁は薄口で美味しかった。その辺りの店よりいい味だ。お茶も3杯ほど頂き、9分ほど休ませて貰って出発する。この先下りが続くので走れるところまで走ろうと思った。しかし、あまり走れずに歩き出す。しばらく行くと真っ黒な歩道になった。外灯はひとつもなく、懐中電灯がないと何も見えない状況だ。4車線道路に外灯なし。ここでも何とも不思議な組み合わせに思えてきた。

もう走る気も薄れ、すっかり歩きモードになっていた。一時20時間を切ろうと思ったのは何だったのだろうか？。時たま歩け歩けの人を抜かしたが、もう先頭まで抜かしたみたいだ。風通しの良い場所なので肌を刺すような感じの風になってきた。上空は星空で今晚は冷えそう。「中国自動車道」高架下を潜り、国道262号線から左斜めの県道21号線に入る。歩いているせいもあり、汗は引いてきた。寂しい道路だが、22時を回ると人の姿もない。空を眺めると雲ひとつない快晴で星が綺麗だ。左折する車には注意しないと・・・。少し行ったところの自販機前でシャツに長袖部分を付けた。ボタンが嵌めにくく苦労する。後続はとどろんと抜かして行く。「宮島町歩道橋」に上って、右側歩道に移る。「山口駅入口」交差点を右折した先の店先で今度はロングタイツを履いた。その後も歩いているので反対側歩道をとどろんと抜かされて行った。もう諦めた。「サンデン交通」の前を左折し、スタート方面に向かう。折れるところはどこでも白線の矢印が引かれていて、間違えることはなさそう。

『山口福祉センター』（43.4km）が右の奥まったところにあった。シューズを脱いで中に入る。畳の間で先着者達が休憩されていた。おにぎりを勧められたが海苔は消化が悪く、よく戻すのでみそ汁をお願いした。冷たい水を3杯ほど頂いて、早々にコースに戻った。7、8分の休憩だっただろうか。この先、萩往還道が待ち構えている。すると私が地図をメールで送った三重のK児さんが後ろから追い着かれたので世間話をしながら歩く。国道9号線の地下を潜り、スタートした瑠璃光寺前を通過、「天花橋」を渡ると急な上りが待ち構えていた。

天花橋（44.8 km）

23時54分（5時間49分）

急な上り坂をK児さんとさくら道の話などをしながら歩いた。K児さんは観覧舎の masa さんをよくご存じの方だった。「一の坂ダム」や「錦鶏湖」が左側にあるが暗闇で何も見えない。一の坂ダム付近の右側にメガネにランパンのランナーが見えた。小野木さんだ。ウェーブスタートの関係で正確な時間はわからないが、まだ0時になっていないので29時間台でゴールされるようだ。暗闇とはいえ、初めてお目に掛かって感動した。小野木さんとはメールのやりとりは2、3度あるが、同年で伝説的なウルトラランナーに会えてとても嬉しかった。著書「あぶないランナー」はとても参考になった。「天花畑」を少し直進すると「萩往還」の石碑があった。奇しくも地名は違うが中山道と同じものだった。静岡の年輩女性、M田さんから「一緒に行つて欲しい」と言われ、K児さんと3人で真っ暗な坂を上った。急な上りの石畳が続いた。暗くて足元が見えないので、どんな石畳かわからない。また汗が出始めた。これはきついと思い、ロングタイツを脱いでデイパックに仕舞った。

もう0時を回ったが、山中は湿度が高く、やや蒸し暑い。足元はバラスに変わり、急な上りは続いた。集団は増え、6～7人になっていた。上りがきつく、私はひとり遅れて進むとK児さん達の集団は私が来るのを待っていた。目の前に舗装道路があり、その真正面にきつい上りがあったが、どちらに行つて良いのかわからずに困惑しているようだった。初めて参加する私に尋ねられても困る。私が「道路を横断して真っ直ぐ」と言うともみんな進んで行った。辺りは真っ暗だが、周りをライトで照らしながら進むと問題なく見えた。「一の坂一里塚跡」が小さいながらも右側にあった。坂は緩くなり、足元もやや葉っぱが多くなったように感じたが、何せ上りが続いたので息が苦しい。時たま走るが、ほとんど歩いた。再び道路を横断し、上つて行くといつの間にか下りに変わった。

標高560mの『坂堂峠』はこれが峠と思っているうちに越えてしまったようだ。天花畑からの石畳があまりにも急だったので、あつけない峠越えだった。少し下つた後、石段を降りて行くと2番手のランナーが道路脇に座られていた。おシオ師匠だった。真っ直ぐに往還道の石碑のある方に行こうとすると「左」と教えて下さった。かなり辛そうに見えたが、プラス70km頑張つて欲しい。確かに矢印の白線が引いてあった。ここからは長い下りが続いた。最初は急な下りだったので一気にペースアップし、飛ばした。暗闇の中なので心配し、付いてくる人がいるかと思ったが誰もいなかった。この先でM田さんを追い越す。私も頑張つたが、彼女もしっかり付いてきた。「上長瀬」までは下っていたが、その先はやや平坦となる。右側の農家の倉庫が明るくなっていた。エイドだ。おばあさん達が草餅をご馳走して下さいだったので半分だけ頂き、お茶も貰った。餅は口の中でネバネバするので走っている時は苦手だ。

エイドを後にして歩きも少し入れながら、走った。M田さんはコースが間違っていないか気にされていた。時たま地面に矢印があった。「日南瀬」の手前で左矢印が描かれていたので坂を上る。M田さんはそのまま真っ直ぐに進まれたので、大きな声で間違つたことを告げるとUターンして後ろに付いて来られた。右に休憩所らしきトイレがあった。「中の作」で国道262号線と合流。M田さんはサロマや富士五湖117kmを走つたとのこと。富士登山も3回ほど完走されているそうだ。山に強いはずだ。M田さんは100kmサブ10ランナーで女子フルの3大国際大会を走られている方だった。「私は歩くので先に進んで欲しい」と言つて「この先は右折になるので矢印をしっかり見て下さい」と言つて先に行つて貰った。走り歩きの混ざったコンビネーションランで進むと右折する矢印があった。このまま真っ直ぐに進むと道に駅「あさひ」がある。M田さんは心細いので待つてくれていた。ここからの往還道は畦道だった。このコースで大丈夫なのかと思つたくらいだ。

佐々並市（58.5 km）

01時13分（7時間8分）

『佐々並市』の家並の中にエイドが見えた。バナナを少しと水を頂いた。250kmのひろっさんもエイドに立ち寄られていた。名前を言つて挨拶。プラス70kmにも参加されるので36時間以内にゴールできそうだ。佐々並川を渡り昔の街道筋のような短い家並を過ぎるとまた右折し、往還道に進む。急な上りだ。左手の明るいところが道の駅「あさひ」のようだ。往還道の上りは続いた。M田さんと歩いて進む。山の中が続く。暗闇の山中はどれだけ進んでいるのかよくわからない。標高で100mほど上つたあと、左に国道262号線が見える位置になった。落合川に沿つて畦道のようなところを進む。「萩往還」の大きな表示が目についた。急な坂道を上ると一旦国道に合流した。道路脇から水の出ている音がしたので顔を洗い、口にする。冷たいので気持ち良い。再び右の往還道に入る。ここからも上りが続いた。地道は荒れ

ていて進み難かった。左の国道がすぐ側を走っているだけに余計に辛くなる。この辺りは「新茶屋」だ。また畦道に変わり、ようやく草むらから国道に出られた。新茶屋国道合流地点だ。ここでM田さんは先に進まれた。速いランナーなので歩きの多い私と一緒にだとやきもきされたと思う。ここからはひとり旅になった。

まだ上りは続き、右に『新ノ切峠・標高405m』と書かれた大きな看板が立っていた。ようやく上りは終わり、この先は下りだ。ふきこさんから聞いたこの先で左の往還道に進む予定をしていたが、天気も良いので正規の国道を進んで右に折れるコースを選んだ。写真で見た自販機があったので缶コーヒーを買う。120円入れると何故か110円音もせずにおつりが出てきた。不思議な自販機だ。長い下りが待ち構えていたので走り出す。缶コーヒーを飲むとよく戻すが少し行ってからコーヒーを戻した。やっぱり缶コーヒーは良くなかったと反省。1kmほど下って行くと、白線でUターンに近い矢印があり、土手の道路脇を右に下って左折した。

農家が少しあった。若干上ったあとは下りが続いた。「一升谷の石畳」は昔ながらの石畳で長く急だった。下りだというのに苦しかった。滑らないように歩きながら下る。真っ暗闇だが、気持ち悪いとも怖いとも感じない。前からゴールの瑠璃光寺を目指す250kmランナーとすれ違うシーンが多くなってきた、前から灯りが見え、NAMIさんだったので声を掛けるが、かなり苦しそうだった。NAMIさんもプラス70km組のひとりだ。NAMIさんとすれ違った後ろから silk さんが来られ、一気に抜かされた。下り得意な silk さんは次第に姿が見えなくなって行った。石畳が終わって、一息ついた後も長い下りは続いた。ところどころにトイレと休憩所があった。左は「一升谷」だ。蛙の鳴き声のような声が響き渡っていた。走ろうとするが歩く癖になってしまい、もう走れない状態に変わった。下りは続くが地面のバラスで滑ることが気になり、走れなかった。下りは3kmほど続き、ようやく「明木市」の集落に到着。農家の軒先のような畦道を通り、国道262号線を潜ると集落に入った。

明木市 (67.7km)

03時22分 (9時間17分)

右折すると『明木市 (あきらぎいち)』の中心のようだ。街道筋のような雰囲気だった。明木川を渡り、山のすそ野を進む。舗装した道路なので進みやすい。もう完全に歩きの世界に変わっていた。「萩有料道路」の下を潜り、舗装した畦道を進む。田の中といった感じだ。そして、またその先は山の往還道に入る。地図を見ているとクネクネした山道のような。また120mくらい上らないといけない。舗装した道路の先に右矢印あっていきなり階段になっていた。これが急だった。息が切れそう。その先も山道で急な上りがあり、ここも苦しかった。今までで一番、山の中といった感じだった。木々をかき分けて進む感じの中、少し下った先に丸い石を並べた石段を下りると『道の駅・萩往還公園』が見えた。往路は料金所にエイドがなかった。道の駅の真横に料金所はあって、明かりが眩しい。

ここからは下りが続く。本当はこの先で右にコースをとり、「中国自然歩道」に進まないといけないが、そのまま萩有料道路の歩道を進んでしまった。全く気が付かなかった。前の何人かがそのまま進んだのと眠気のせいで思考力が鈍っていたからだろう。250km組も何人かとすれ違った。「おかしいなあ」とは全く気が付かなかった。時々、ストレッチしたりして眠気を払うようにした。徐々に夜明け前の空に変わってきた。右に「変電所」が見え、この先で左折するのだと認識する。国道262号線合流付近で250km組が右の方に進んで行く。「どうしてあっちに行くのだろうか？」と思ったが、間違っていたのは私だった。この時初めて間違っていることに気付いた。

山陰本線を越えた次の信号を左折し、誰ひとりいない「萩駅」前を通過。少し明るくなってきた。時々ま人に会うが静かだ。とにかく眠たい。橋本川が右に見え、一度道端で座り込んで5分ほど目を瞑った。ランパンなので朝の冷え込みが若干応える。またフラフラしながら歩く。眠たいと走れないどころか、歩くこともままならない。「玉江橋」付近にコイン精米機があったので中に入り、ドアを閉めて7~8分の間、目を瞑って休んだ。後続ランナーがどんどん抜かして行



く。元気ではないが、再び歩き出す。「玉江駅」が見え、休んでいるランナー、出てくるランナーの姿が目についた。ここは250kmとの合流地点のようだ。駅の横に車が止まっており、よく見るとがつつくんだ。大村湾以来だ。わざわざ熊本から応援に来て下さったのだ。「気になって来てしまいました」と言われていた。冷たい水とあられを頂いた。「ふきこさんはまだですね」と心配されていた。がつつくんの姿を見て少し元気を貰えたような気がした。(写真は右脳に血が偏ったために右傾したのかな?)

少しずつ走り始めた。前に小柄な福岡のS籐さんの姿が見えた。大村湾でお会いし、視覚障害者のご主人はいつも中間レストでマッサージをやって下さっている。「常磐大橋」付近には漁船の姿があった。城下町「萩」らしい落ち着いた雰囲気だ。「指月橋」で140km組のみ左折し、『萩城跡』に向かう。観光地なので店も多いが、立派な屋敷も目につく。みんな歩いていた。



萩城跡・石庭公園 (79.2 km)

5時43分 (11時間38分)



城跡らしく下は芝だった。チェックポイントのパンチをする。最初とはパンチの形が違っていた。中のエイドにはおにぎりや水分が用意されていたので、何も付いていない白のおにぎり2個とお茶を頂いた。久しぶりのご飯は嬉しい。再び「指月橋」に戻り、左折する。萩城跡の石垣が綺麗だ。これから萩の中心部のように大きな観光旅館が海側に並んでいた。萩は確か小京都といわれるように基盤の目のような街だと聞いている。走っているのは一部だけなので、それを直接目にはし辛い。朝ランの人とすれ違った。Y字路があり、右に行った方が近いと聞いていたが、早朝の海を見る方が気持ち良いと思い、正規コースの左に進む。「菊ヶ浜」の海岸線の歩道に出ると波の静かな朝の海を見ると気持ち良かった。



阿武川沿いから「雁島橋」を渡り、真っ直ぐに進む。この辺りにも大きな観光旅館が並んでいた。早朝の散歩をしている人を何人か見掛けた。「萩焼会館」前から国道191号線に合流する。反対側の歩道を進む250km組とすれ違う。左に道の駅「しーまーと」と書かれた看板が見えた。この辺りだと思うが、大村湾でお世話になった福岡の飲兵衛・E口さんから声を掛けて貰った。少ししかお会いしていないが懐かしくもあり、嬉しくもあった。その後、何回かE口さんには声を掛けて貰った。右にポプラ(コンビニ)があった。萩港から見える日本海は静かで浮かぶ島々がとても綺麗だ。その頃、三重のとしさんともすれ違い、声を掛ける。掲示板では拝見するが、2003年甲州夢街道以来2回目の再会だ。この先、「笠山」「虎ヶ崎」までは海岸線沿いに迂回のような形になるので長



く感じた。

この付近は飽きやすいので意識的に走る時間を多くした。向こう岸に見える新緑が綺麗だ。「越ヶ浜駅」を越えてから知り合いと多くすれ違った。M尾さんの奥さん、すぐ後ろをM尾さん。いつもM尾さんの走りを見ると頑張ることの大切さを教えられているようで勇気付けられる。「越ヶ浜」T字路前後でF見さん、N嶋さんとすれ違う。N嶋さんは「ゴールでウェディングドレスを着る」と話され、とても元気だった。



silkさんはもう一周されて戻って来られた。「明神池」の横でクニさんは誰かと電話で話されていた。知っている顔、顔とすれ違うと元気になる。「明神池」は「巖島神社」が奉られている綺麗な庭園のある静かな池だった。ここからまた急な坂を上るとY字路があり、ここで右に行くとチェックポイントの「笠山」がある。更に急な坂に変わった。ベテランの愛知・A井さん、2002年さくら道以来のM井さんとすれ違い、再会を懐かしむ。確か今は埼玉に単身赴任中のはずだ。またこの辺り、先週のネイチャーラン2位のT中さん、そして一緒に走られている女性と目の前か背中くらいで前後した。

笠山山頂園地 (88.8 km)

7時18分 (13時間13分)

『笠山』山頂は標高100mほどある公園だった。車が入れないように鎖で括ったポールの端を抜けて上に進んだ。自分でパンチをし、海を眺める。何と素晴らしい眺めなのか。海に浮かぶ島々が疲れを癒してくれる気がした。上って来た坂を戻った後も右折して、笠山を一周する。再びアップダウンのある半島の先のようなところを進むが元気が出てきたのか、上りでも走れるようになっていた。ここからの景色も素晴らしかった。その先に次のチェックポイントが見え元気が出る。



虎ヶ崎 (樺の館) (91.5 km)

7時43分 (13時間38分)

『虎の崎・樺の館』に到着。ここは食券で食べられるものがあるようだ。中に入ると10数人の人が居た。カレーライスがあったので注文。すると先着の弟の兄さんとぼったり鉢合わせになる。2月の大村湾以来だ。缶ビールを飲まれていたので、つつい私も注文してしまう。やや暑くなってきて、冷たい水が美味しいので何杯もお代わりした。カレーはかなり量があったが、腹が減っていたので食べられた。ムーミンさんも入って来られた。15分くらい休憩したのだろうか、食堂を出て、虎ヶ崎から明神池に戻るコースは遊歩道のような狭いところだった。

足元は危険だが、見晴らしの良いところだった。T中さんとほぼ同じ位置で進む。少し進むと休憩所があった。前にどこかで見たような方がいると思ったら、京都のI坂さんだった。2003年さくら道で道中一緒に走ったこともあった。結構足の運びが苦しそうだった。声を掛け、先に進んだ。F井さんは花粉症で今回参加されていないそうだ。下りの幅の広い道路に出ると明神池に戻れた。相変わらず、走ったり歩いたりを繰り返しながら、越ヶ浜T字路を右に曲がる。この先、行きは長く感じたが、戻りはそれほどでもなかった。ジェイさん、Y田さんとすれ違い、お互いに健闘を誓う。250km、140kmを問わず、すれ違う人がまだまだあった。向こうからK田さんの姿が見えた。先週はネイチャーランを完走されたというのに元気だ。「宗頭で5時間半寝た」とニコニコ話されていたが、K田さんは仙人のひとりなので凄い一言。やまさん、こがみちゃんとはすれ違わなかったで、もう行かれたのだろうと安心する。

徐々にすれ違う人の数が減ってきた。「萩焼会館」前で左折し、「東光寺」へ向かう。ここからは狭い歩道を進んだ。歩きが多いので後ろと離れていてもすぐに追いつかれる。日差しが強くなり、かなり暑くな

ってきた。後ろのH満さん、A田さんに抜かれる。このA田さんがありんこさんと後で知った。同じ京都にはあさりこさんという方も居てややこしいハンドル名だ。突き当たりに信号があり、そのまま真っ直ぐに橋を渡ると参道があったので左折する。ここも白線が引いてあるので間違えることはない。東京のN本さんによく似た方とすれ違った。そのまま歩きながら進み、やや右に曲がったところに『東光寺』の朱塗りの山門があった。

東光寺正門前（99.7 km）

9時13分（15時間08分）



境内を覗くとピンクのツツジが綺麗だった。折り返して来た道に戻る。N本さんを抜かすと「怪速亭の帽子を被っていたのでわかりにくかった」と言われた。N本さんとは昨年のしまなみ海道以来だ。この先左折するとバスや乗用車が満車の駐車場があった。何なんだろうと思っていると「伊藤博文」や「吉田松陰」の旧家があるところだった。この付近「松蔭」と名の付くところが幾つかあった。右にポプラが見えた。歩道が広くなり進みやすくなった。9時半を回り、いよいよ暑くなり始めた。日差しも強い。阿武川に掛かる「松蔭大橋」を渡り、自販機で冷たい物を飲む。この先の信号待ちはムーミンさん、福岡の

Oさんと一緒だった。ムーミンさんと「昨年の大雨の中、あのような陰しい往還道を走って完踏されたM本さんは凄い。伴走されたH井さんもまた凄い」と相づちを打ちながら話す。

国道262号線の「御許町」で左折し、早歩きで進む。Oさんの歩きは付いていけないほど早かった。間もなく往還道に入るのでコンビニに寄ってペットボトルを購入する。「椿町」交差点を左へ道なりに進むとポプラが左にあった。その先に「変電所」が見えて来た。変電所の東側を進むのが本来のコースだった。ムーミンさん達と同時に国道を渡り、「中国自然歩道」に入って行った。緩く上って行く。集落の中を通り過ぎながら進むが農家が多い。前からは70 km、35 kmのマラニック組がどんどんやって来て、すれ違う毎に声を掛け合う。35 kmは片道だが、70 kmは萩城跡の往復だ。早いランナーは折り返して抜かして行く。上りだが影が多く、暑くなくて良かった。ここはずっと歩いた。途中に「涙松の遺址」と刻まれた石碑があった。この辺りからはやや急な上りに変わった。変電所から萩有料道路料金所までは120 m近く上っていたのだ。料金所手前で萩有料道路の歩道に合流した。



道の駅「萩往還公園」（107.2 km） 10時30分（16時間25分）

復路の『道の駅・萩往還公園』にやっと着けた。ここは観光客とランナーが入り交じって、結構な人数だった。エイドがあるので助かる。バナナ、パン、飴、水分を頂いた。ここからは30 kmほどだ。30 kmだけ走るなら、それほどでもないが、この先往還道を進まないといけないかと思うだけで辛い。帰りは上りが長くなるからだ。この道の駅には明治維新の原動力となった吉田松蔭や高杉晋作、久坂玄瑞、

木戸孝允などの群像が並ぶ。新しい国づくりを目指す人材を育てた吉田松蔭の講義室が復元され、記念館となっていた。

この先、駐車場の向こうにある丸石の階段を上ると日陰の往還道に入って行く。落ち葉の中、最初は上りだった。休憩所の「坂駕籠建場跡」があった。階段を下りると舗装道路に変わった。下って行くと景色は開け、山間の水田が見えて来た。また強い日差しがやっ



てきた。トラクターで代かきされている姿があちこちに見える。右手の水田は土手が全て石垣で農機具を使うには不便だと思うが、見た目何とも立派な水田だと感心する。畦道のど真ん中に蛇が居座っていた。追い払うと脇に移動し、一安心。東側の国道262号線も萩有料道路も何ら変わらない道路

で、有料とは思えない萩有料道路だった。萩有料道路の高架下を潜り、一休みしていると NAMI さんご夫婦、続いてひろっさんとすれ違う。NAMI さんも、ひろっさんも250kmゴール後の70km挑戦中だ。凄い。70km、35kmマラニックの方々とすれ違う。定かではないが、35kmのうららさんとすれ違ったのもこの頃だと思う。明木川を渡ると『明木市』の中心部に掛かる。明るい時に通ると宿場の雰囲気を感じさせてくれる。市が開催されていた。市と名が付くので昔からあったのだろう。田舎でありながら、結構人が多い。

明木市 (110.8 km)

11時19分 (17時間14分)



「萩往還祭り」の旗がなびいていた。35kmウオークの方々はテント下で弁当を広げられていた。弁当が貰えるようだ。エイドではバナナ、お茶、飴を頂いた。直角に左折し、やや狭くなった道路を進むと国道262号線の高架下を潜り、更に畦道を過ぎると日陰の往還道に入って行く。前にくーさんが歩かれていた。何とリタイヤしたとのこと。いつも辛抱強い方なのだが、どうしてと思った。くーさんの前に出て、ひたすら上りを歩く。地道だが目で見るよりきつい上りのようで、一休みしながらでない前に進めない。息が切れそうだ。ところどころに休憩所とトイレがあった。



一旦、平坦が少しあり、その後に「一升谷の石畳」がある。約300mに渡り、当時のままの姿があった。休憩所で腰を降ろすと向かいの女性から声を掛けられた。「おおひらさんではありませんか？」と聞かれ「そう

ですが」と言うと「北海道のN和です」と言われ、こんなところでN和さんとお会いするとは思ってもみなかった。メールでは甲州夢街道の時と今回、何回かやりとりした。ゼッケンがないと思っていたら、リタイヤしたとのこと。



「往還道を通りたいので歩いている」と言われていた。先に進むが石畳は非常に長く感じた。約3.5kmで300m上がったことになる。短い下りがあり、脇に数軒の家があった。上りの汗で喉が乾いてどうしようもない。

国道262号線にようやく出られた。この先も新ノ切峠までは80m上らないといけない。国道に出ると暑い。私の場合スタートから数時間は汗の量が多いが、それを過ぎるとそれほどでもないので助かる。冷たい水が飲みたい、飲みたいと思っていると待避所につくんの車が偶然入って来て下さった。有り難かった。冷たい水を2杯貰う。その先に自販機があったが、本当に助かった。再び『新ノ切峠・標高405m』の看板を越す。この先、正面に木のトンネルのようなところが見え、そこから草むらに入って行った。やや平坦な畦道から、林道のような地道に変わった。少し下っているが、地道の中央が溝のように窪んでおり、荒れていた。足場の良いところを選んで進むがバラスの影響でスムーズには下って行けなかった。太陽が真上にあり、日差しがより強くなってきた。



一旦、国道262号線に出る。確かこの付近の道路脇から水が出ていたはずだ。右側を注意して見ている



ると水があった。車を避けながら道路を横断し、顔を洗い、水を飲む。水は冷たければ山水、やや生温ければ水田の水と思うのでこの水は冷たかったので飲んだ。再び国道262号線から左に逸れて往還道を進む。急な階段を下りるとまた畦道に変わった。左側に落合川が流れていた。行き同様、縦に

大きな字で「萩往還」と書かれた表示があった。小さな「落合」の集落があり、その先は山道になり、またきつい上りがあった。終わると今度は急な下りに変わった。下りでもほとんど走れなかった。山道を下って左折すると『佐々並市』の町並みが見えて来た。往時の宿場町の風情を今に伝える町並が残っている。疲れたので自販機に寄って冷たいコーヒーを飲む。結局、自販機はこの先、ゴール手前までなかった。佐々並川を渡るとエイドが見えて来た。冷や奴、飴、水を頂く。ここのエイドにはランナーが多かった。

佐々並市（120.0km）

13時40分（19時間35分）

エイドを後にし、狭い田の畦道を過ぎると国道262号線に合流した。最初は平坦が続いたので、久しぶりに少し走った。しかし、遠くを見て明らかに上っているのがわかるともう走れず、歩き通した。全く遮るものがなく暑くてたまらない。喉が乾く。大きなカーブを越えると「中の作」があり、ここで右折して往還道に入る。ここは砂利道で走りにくい中ではあるが、何故か走った？。途中に「首切れ地蔵」と休憩所、萱造りの小さな小屋があった。中山道でもそうだったが、寂しいところに首切れ地蔵はある。坂を下ったところで再び国道262号線に合流。この先、国道を4kmで約180m上ることになる。歩道は当然ない。GWとあって車もそこそこ走っているので気をつけないといけない。



ひたすら歩く。250km、140km共に走っている人はいないようだ。先が見えると余計に辛くなるが、もう残り15kmを切っているので気分は楽になってきた。少し行けば草餅のエイドがある。一番暑い時間帯で歩きもままならない。左に小屋が見えて来た。エイド

だ。道路を横断し、寄らせて貰う。喉が乾いているので草餅はちょっと食べられない。水分を貰おうとするとやや熱いお茶だったので、これは飲めなかった。結局エイドでは何も口にできなかった。（横に水があったそうだが、気が付かなかった。）この先の夏木原キャンプ場にエイドがあると書いてあったので、ここで水分補給しようと思った。右に長瀬川が流れ、木々に挟まれた中、沈黙の世界を進んで行く。みんな疲

れがピークになっているようだ。前の人が左右にふらふらしながら歩かれ、車が来るとヒヤヒヤした。横に行くと河内長野RCのK山さんだった。その前には上半身を30度ほど傾かれたF見さんの姿があった。バランスをとれないらしく、ややふらつかれていた。「歩き過ぎて、足が痛く身体が傾いている。歩きに慣れてないから辛い」と言われていた。こんな苦しそうな実力者F見さんは初めて見た。いくら歩いても大丈夫な私とはえらい違うなあと感じた。「夏木原キャンプ場」前に来てもエイドはなかった。自販機もない。気が抜けた感じになる。更に急な上りに変わると間もなく往還道の階段に差し掛かることがわかった。大きなカーブを上り切ったところにガードマンが居て、コース誘導していた。ここで標高510mくらいだ。階段を上りながら、隣に居た山口のH田さんに「キャンプ場前にエイドはないのですか？」と尋ねると「草餅のところはキャンプ場前のエイドですよ」と教えて下さった。

坂堂峠（128.3km）

15時05分（21時間00分）

往還道の山道を上って行くとき緩い上りから下りに掛かったところが最高点560m『坂堂峠』のようだった。ここからは下りに変わった。木々に囲まれた中、山道を下って行く。涼しい。下りになってからは時々走った。階段を上り下りして、一旦道路を横断するが、ここもガードマンの誘導があった。最初下りは緩かったが徐々に急になった。土の地道で走りやすかったので無理のない程度に駆け下りて行った。「一の坂建場跡」が見えた。建場とは休憩所のようなところだ。

この先石畳に変わった。ここからは復元された石畳だったが、1km弱で200m下らないといけない。石畳だったので逆に危なくて走れなかった。夜中、ランパンになったのも、こんな急な上りなら暑くてたまらないのも当たり前と振り返る。前にゼッケン171番のI井さんが見えた。大村湾以来だ。250kmなのでかなり辛そうだが、ゴールは目の前だ。一声掛けて先に進む。石畳を終えて、公園のよう



な休憩所があった。ここは「天花畑」だ。ここからは3.5kmくらいだが、最後になると余計に長く感じるものだ。右の「錦鶏湖」を見る形で下って行く。先ほど抜かしたK山さんに今度は抜かされた。「一の坂ダム」で立ち止まって辺りを見回す。水が切れて、何か飲みたいが自販機がない。あと少しなので走り出す。この辺り車も多くなっていた。天花の住宅街に入り、「天花橋」を渡る頃スタッフの誘導があった。本当にもう少しだ。応援の方の手前もあるので走った。ゴールに曲がるころの木町橋でようやく自販機を発見し、冷たいミネラルを買って一気に飲む。時間や順位は気にしない私はやっぱりゴール手前でもさぼっていた。右折すると花道が待っていた。観覧席には多数の人の出迎えがあった。さぼってばかりいたので何故か恥ずかしい気分になる。横ちゃんが手を差し伸べてくれた。多くの人の出迎えを受け、『瑠璃光寺』境内に入り、ゴールテープを切る。

【ゴール】瑠璃光寺（134.4km） 16時12分（22時間07分）

完踏賞は道中にあった萩往還と記された石標と同じ形をしていた。北九州のU村さんに写真を撮って貰う。ボランティアされたタラさんから「A田さんが魚焼いているから早く早く」と言われ、ビールを買って貰い、一息つく。いつも笑顔のA田さんだ。舞鶴から車で来られたのだろうか？ A井さんの奥さんの姿もあった。KTU名誉会長でもあり、1月の新年会の差し入れの御礼を言う。E口さんや大村湾懇親会で司会をされるM田さんと談笑し、来年の大村湾での再会を約束。こがみちゃんが戻って来たので写真を撮りにゴールに行く。元気でいつも笑顔のこがみちゃんのゴールだった。I井さん、ジェイさん、弟の兄さん、Y田さん、やまさんもゴール。やまさんの顔は青ざめていた。ひろっさんとふきこさんが並んでゴ

ール、ひろっさんが萩往還史上初の250km+70km完踏をされた瞬間だった。ダブルさんは140km大会レコードの15時間00分26秒で1位、やっほ～さんも3位と凄い成績。制限時間まで瑠璃光



寺に居た。その後、荷物をまとめて宿に向かおうとするが、やまさんは気分を悪くされたのでみんなで助けあって、「湯田温泉」にジェイさんの車で向かった。

うららさんに予約して貰っていた「ホテルニュータナカ」は大きなシティホテルだった。シャワーを浴び、青馬会の方などみんなでホテル内の和食の店で夕食。ローズかつ定食にビールを注文。疲れでやや味覚が変わった。北海道の縞猫さんから電話があり、「惣野旅館で飲んでいるので来ませんか」と連絡があったが、時間が遅かったので翌朝のことも考え、お断りせざるを得なかった。大村湾以来だったのでお会いしたかったが残念だった。縞猫さんも250km+70km組だったが、250kmだけで終わられたようだ。因みに250kmはひろっさんより8分早くゴールされていた。ということはどこかですれ違ったはずだが、夜中暗くて気が付かなかったようだ。

翌朝は朝食バイキングをたっぷり食べて、ひろっさんのエスティマで9時前にホテルを出発。ふきこさん、おシオ師匠、くーさん、タラさん、やまさんの7人で一緒に帰る。京都駅には13時半前に着けた。ここでやまさんと別れ、生ビールで昼食し、家へと向かった。

7日は10kmあまりを6分くらいで走れたが、8日は会社の友人達とバーベキューのため、竜王にある「妹背の里」というところまで15km走って行く予定で出発したが、4kmくらいから走れず、結局ウォーキングになってしまった。

【大会を終えて】

前半の完全なオーバーペースでバテるのがあまりにも早く、25km付近から苦しさの連続だった。前半押さえて、疲れを溜めない程度に進むと結構長く走れることは重々承知しているが、萩は大村湾のような本当にゆっくりスタートの大会とは違って、最初からレース的な感じさえ受けた。それが自分自身をコントロールできなかったのだろう。修行が足りないようだ！

萩往還は思っていたよりはるかに厳しく、山口も萩もとても綺麗で歴史の重厚感と安らぎを与えてくれる街だった。その街を結ぶ萩往還道は思っていた以上に厳しかった。しかし、かの昔この道を通って大名行列した人々が居たかと思うと昔の人の凄さを感じずにはいられない。道には自然や歴史、文化があり、人が居て成り立つことの素晴らしさを教えてくれた萩往還だった。250km挑戦は来年可能なのか、それともいつになるかわからないが、一度は挑戦したいものだ。